

風 車〔学校だより〕

北九州市立赤崎小学校
校長 宮 原 謙 二

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・言語知識理解は基礎ができていた。 ・読む力を問う問題に課題がある。読むことを習慣化する必要がある。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・活用問題に対しても、苦手意識をもたず、粘り強く取り組むようになってきた。 ・目的や意図に応じて、自分の考えを書く問題に課題がある。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・基本的な計算問題の誤答が少なかった。図形領域に苦手意識をもっている児童が多いことが分かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・活用問題に対しても、苦手意識をもたず、粘り強く取り組むようになってきた。理由を記述する問題に抵抗を感じている児童が多い。
理科	全体的な傾向や特徴など	・観察、実験したことの技能が身に付いていないことと理解できていないことが分かった。確実に習得することができるようになっていかなければならない。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると答えた児童が年々増えてきた。全校で、子ども主体の授業に取り組んできた努力の成果が少しずつ出てきている。

・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が増えてきた。今後も、授業で話し合う活動を多く取り入れていく。

・算数科は、基礎的・基本的な力が身に付いてきた。全校で、学力向上に取り組んできた成果が表れてきた。

・書くことと読み取る問題に抵抗感をもっている児童が多い。書くことに関しては、無解答率が低くなってきた。今後、図書室の利用を増やすなど、読むことをさらに習慣化していくようにする。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・休日に勉強する時間が1時間以内の児童の割合は変化が見られず、課題である。休日においても、2時間以上勉強することができるよう、家庭に啓発していく必要がある。

・普段、学校図書室や地域の図書館を利用している児童の割合が低かったので、1日あたり1時間以上読書をする児童の割合も低かった。宿題で、読書を増やす等、本に親しむ児童が増えるようにしていかなければならない。

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・学校に行くことを喜んだり、学校の出来事について話をしたりする児童が、年々増えてきている。

・2時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりする児童の割合が年々増えている傾向にある。家庭学習に時間を充て、テレビ・ゲームをする時間を減らしていかなければならない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・全職員で学力状況調査・CRTの問題を解く。
 - ・本校の課題について全職員で分析する。
 - ・学力向上のための取組の確認・振り返りを行う。
- 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習の時間に「赤崎タイム」を設定する。(月、火曜日は、漢字スキル・書く活動。水、木曜日は、計算スキル・算数プリント。金曜日は、読書とする。)
 - ・各学年、算数科は単元別プリントを少人数指導教員及び小中連携サポーターが準備をする。また、印刷室に設置しているプリント棚を活用する。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・冬休み、春休みに宿題とし、答え合わせ、やり直しなどを行う。
 - ・アシストシートは、朝自習や宿題で活用する。
 - ・5年生については、学力状況調査に関する過去問題を春休みから4月の学力状況調査の間まで、朝自習の時間を活用して取り組ませる。
- 「書くこと」を習慣化
 - ・どの教科も自分の考えを書くことを習慣づけたり、学習の終わりに必ず感想を書かせたりするなど、書く活動を位置付ける。
- ひまわり学習塾との連携
 - ・職員が学習塾の様子を見に行き、教師と指導員が課題を共有する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・月末に「家庭学習チャレンジハンドブック」を回収し、担任ががんばりを認め、課題について助言するようにする。
 - ・夏休み、冬休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。
- 宿題のスタンダード化の中で
 - ・学校だより等で、家庭学習時間の設定について呼びかけていく。
 - ・宿題等で自学ノートを活用していく。
- 全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知する。

